

（魅力動画）

（入会フォーム）

（Facebook）

（行事案内）

同友会って
どういう会？

おきなわ同友会しんぶん ニライ みらい

2023年（令和5年）
12月号
No. 429

発行：沖縄県中小企業家同友会
編集：広報委員会

〒901-0152
沖縄県那覇市字小嶽1831番地1 沖縄産業支援センター603号
☎098-859-6205(代) FAX.098-859-6208
http://www.okinawa.doyu.jp
E-mail:doyu@okinawa.doyu.jp

21世紀に 輝く No.227

創業二十周年を迎えた
（有）友誠の代表取締役棚原
歩美さん取材しました。

同社は通所介護施設の
経営主体として設立され
た後、有料老人ホームを
二ヶ所、居宅介護支援事



（有）友誠
代表取締役 棚原 歩美 氏（浦西支部）（前列左端）

利用者や家族・スタッフとその家族、 地域の皆様のハッピーな暮らしを目指して

業所と事業を広げてきた
福祉サービスの会社で
す。二〇〇三年に歩美さ
んのお父さんを代表とし
て設立され、その翌年
は、歩美さん自身も入社
しました。ところが、入
社九年ほど経ったところ
で家族と方針が合わずに
退職し、他の福祉サービ
スで働き始めます。そし
て五年ほどした二〇一八
年に代表取締役として呼

び戻されます。お父さん
も引き続き代表権を持っ
ていますが、代表として
戻った以上は「会社を変
えてやろう！いい会社に
しよう！」という意欲に
燃えていたものの、経営
のことはわからない。そ
こで同友会に入会しま
す。なんと同友会入会は、
歩美さんのお父さんに対
して出した代表就任の条
件だったとか。

事業の収益性と信頼との バランスを大切に！

同社のホームページ
（以下、HP）には「利用
者や家族、スタッフとそ
の家族との信頼関係を大
切に」とあります。福祉
は価格を行政に決められ
ていて利益が出にくい
業界。それでも利益を出
そうとすると、利用者さ
ん一人あたりが利用する
サービスを増やそうとし
たり、利用者さんの困
込みに走りがち。でも、
十分な利益を出して社員

お父さんが歩美さんに
期待したのが「守る」。そ
れは家族を守るというこ
と。病気のお兄さんとお
姉さんが同社で働いてい
ますから、お父さんは家
族の将来を末っ子の歩美
さんに託したようです。
とはいえ、「家族を守る」
だけでは会社としての明
確なビジョンがないた
め、どこへ向かえばいい
のかわからないし、社員
さんにも示せない。そこ
で経営指針作成講座に参
加します。一回目の参加
では、それまで自分が長
い時間を過ごしてきた現
場職員の意見の延長線上
で終わってしまった感じ
がしました。しかし、二
回目の参加で会社の未来
像に変化したそうです。

経営指針作成講座で 会社の未来像が 見えてくる

経営者は孤独…。
そう思って一人で
悩んでいませんか？
その悩み、
経営者同志なら
知恵を出し合い
解決できる。

沖縄県中小企業家同友会
新規入会大歓迎!!

入会説明は同友会事務局まで

さんの働く環境や待遇を
改善したい。そうすれば、
社員さんがハッピーにな
り、社員さんがハッピー
になれば利用者さんに優
しくできる。すると利用
者さんもハッピーになる。
事業の収益性と信頼との
バランスをとって行くこ
とを考えているようです。
また、家族を守るのであ
れば、自分だけが頑張る
んじゃないで家族一丸で
チームとならなければ、
そのリーダーが自分。そ
のためにはプレーヤーか
ら脱しなければ、と考
えるようになりました。

地域で誰もが 自分らしい生活ができる 社会を作りたい！

同社のHPにはもう一
つ、「楽しく自分らしく、
安心して暮らせるように
お手伝いします」と書か
れています。歩美さんに
十年後に目指しているこ
とを聞いてみると、返っ
てきた答えが、自社ビル
よく聞いてみるとただの
自社ビルではないんです。
エレベーターのある、
集合住宅を併設した本社
ビル。なぜエレベーター
にこだわるのか？

沖縄では、エレベーター
の無い集合住宅が多いで
すよね。四階建てでもエ
レベーターがない集合住
宅が多い。これが、施設
に入る人たちの増やして
いる原因の一つだと歩美
さんは考えています。エ
レベーターさえあれば普
通に生活できる人であっ
ても、住まいにエレベ
ーターが設置されていない
ばかりに施設へ入居し
てくる人が実に多いのだ
とか。エレベーターのあ
る集合住宅が増えれば、
社会保障費が減らせるし、
なにより一人ひとりが自
分らしい生活を送れるの
で人生の質が上がる。誰
もが自分らしく安心して
暮らせる社会の一翼を担
いたいとの想いを歩美さ
んは強くしています。

《会社概要》

（有）友誠
代表取締役 棚原 歩美 氏
（浦西支部）

住 所 / 浦添市内間1-14-9
朝日荘1F
TEL / 098-963-9456
事業内容 / 介護事業（高齢者福祉）
URL / https://www.yuusei-okinawa.com/

近年、デジタル化が急速
「ペーパーレス」や「電子
署名」も来年から完全実
施である。当然、昔なが
らの営業マンである筆者
も若手社員に教わりなが
ら挑戦中▼何かを変える
には、不変のものの価値
をまっすぐに見つめな
すことも大事だとおもう
が、読者の皆さんはいか
がでしょうか。（仲地治）

（有）友誠は、HPのトッ
プに理念のように書かれ
ているとおり、「利用者
と家族・スタッフとその
家族、地域の皆様のハッ
ッピーな暮らしを目指し」
て進んでいます。（伴走
舎・牧野誠）

茶論

研究職の先輩
は実験する際
「物事には四つ
の側面がある」と
心得て臨む
と心得て臨む
という。①変わらないもの
②変わるもの③変えて
はならないもの④変えな
くてはならないもの▼彼
が言うには、①は人間と
環境のための研究目的は
不変。②は研究成果や技
術の進歩で方法は変化す
る。③は毎回、記録し反
省することは変えてはな
らないと強調した。さて、
④は最も難関だと筆者も
思った。過去の成功体験
に執着し、これまで通り
で良いとの「己心▼個人
の見解だが、先の項目を
会社経営に当てはめてみ
た。①自社の「経営理念」
を根本とする経営。②時
代と社会変化に適応でき
る経営。③社員の幸福と
お客様の満足。④につい
てだが、筆者が四十年近
く身を置く金融・保険業
界は一九九〇年代後半の
金融ビッグバン以降大き
く変わった。生損保の相
互参入、長年鎖国状態で
あった国内保険業界への
外資系の進出等々。コン
プライアンスの徹底。は
るか以前は「当たり前」
のようだった特別利益
（立替・代印・代理筆等）
供与は厳重処分される▼
近年、デジタル化が急速
「ペーパーレス」や「電子
署名」も来年から完全実
施である。当然、昔なが
らの営業マンである筆者
も若手社員に教わりなが
ら挑戦中▼何かを変える
には、不変のものの価値
をまっすぐに見つめな
すことも大事だとおもう
が、読者の皆さんはいか
がでしょうか。（仲地治）



オープニングにゆいジョブの演奏

障がいのある方が地域で働き、地域で暮らすために 第17回雇用・就労支援フォーラム



浦西支部長からの挨拶

基調講演は、中小企業家同友会全国協議会 障害者問題委員会 副委員長で、(有)奥進システム社長の奥脇学氏。ご自身の会社の九割以上が障がい者。一人は役員という事もあ

今年、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、リアルのみでの運営開催となりました。記念講演、見学分科会を含む四分会に企業家、行政、福祉、学校関係者が参加し、障害者雇用の事例報告、支援の在り方、新しいビジネスマッチングなど学びを深めました。



奥脇氏

基調講演

究極の働きやすさをめざして 環境づくりの追求と 幸せと思える社会づくり

十月七日（土）に、第十七回雇用・就労支援フォーラムが浦添市社会福祉センターとハーモニーセンターにて、百六十一名の参加で開催されました。第五回「はたらく人」の「将来の夢」あこがれの仕事をテーマに募集した絵画では、最優秀賞に沖縄盲学校の岡村紅さんが選ばれ、会場に展示ブースが設けられました。オープニングは、ゆいジョブによる演奏から始まりました。その後、体験発表に大平特別支援学校 高等部三年の平良春花さん（在校生）、障害者就労支援センターさわやかなの仲村渠正徳さん（就業者）による発表を行い、基調講演・各分会へと移りました。



全体で161名の参加

り、企業がどのように障がい者雇用と向き合うか、事例を交えてお話がありました。体に不自由があることに視点を置くのではなく、誰でも働きやすく、不公平のないルールを作成する事で、心理的安全性の高い職場を実現し素晴らしい企業風土を構築されていると感じました。個々の能力を最大限に発揮させることが出来るという証明をされています。

事業展開は、システム会社という事もありSPISという就労定着支援システムで業務報告をしてもらい、個々の体調管理にあわせて急なリモート対応、特性や症状がどのような時に現れるのかを知る、そこから休憩や業務の適正などを判断し、生産性を上げる仕組みがスムーズに行えていることが労使間の安心につながっているのだと感じました。

第一分会は、「失敗は我が社の辞書の一頁」障がい者雇用から学んだ働きやすい企業づくりをめざして」のテーマで、那覇支部会員の(株)おきな

第1分会

子どもたちの生きやすい 社会を作るのが使命

突然の事故などで、社員が身体障がい者となった場合、本人の精神面のサポートが重要です。(株)リウデン・謝敷千恵子

ポートも含め雇用継続が出来るのか、経営者として考えておかなければいけないことだと感じました。働き方改革が始まり、次年度からはより雇用に関わってしっかりと整備しなければいけません。その際に健常者も障がい者も共に働ける環境を整えることを意識し、事業計画されることをお勧めいたします。(株)リウデン・謝敷千恵子

wedu 比嘉佳代社長による、障害者雇用をしている企業の報告でした。二〇二一年に特別支援学校から新卒を採用し、今年で三年目を迎えて

第2分会

「ともに創るくらしと未来」 福祉と事業両輪で 取り組んでいく



上地氏

第二分会は、「障がいのある人も、障がいのない人も」ともに創るくらしと未来」福祉と事業両輪で取り組んでいく」のテーマで、(株)ハーランドおきなわ・社長の上地清升さんの報告でした。

三十七年前に生活協同組合コープおきなわ（以下コープ）へ就職し、障害者雇用に取り組んだのは、会社の困り事がきっかけでした。当時担当していた総菜部門は人手不足の状態が続いていましたが、障害者雇用に取り組み、「おもしろい」と下ごしらえをする姿を見て、純粹さに心惹かれました。また、店舗撤退による空きスペースを活用し、就労継続支援A型事業所と

それから、福祉、事業の両輪でバランスよく前進することが大事です。まずは職員がしっかり業務を習得し、作業のマッチングを行います。そして経営数値を共有し、黒字を出して、継続的に経営していくことも重要です。常に困り事、相談事を共有し、働く環境を整えながら、雇用の場を開

拓していく必要があると考えています。職員に余裕がある時にしか出来なかつた焼きたてパンの店内放送も、今では利用者が自ら率先して行います。コープでは、一般就労を目指すステップアップや、長時間労働が難しくなつた場合は、B型事業所で訓練や支援を行う方向の受け入れ体制があることが強みです。先を見据えて、本業でチャレンジしステップアップすることで、障がいのある人も、障がいのない人も「ともに創るくらしと未来」に繋がってまいります(事務局)

これは社員教育でも同じで、お互いが寄り添っていくことが本当のインクルーシブではないかと思っています。それを丁寧に行うことによって、誰もが働きやすいルールや仕組みが作られていくのは大きな効果です。しかし一番の効果は、周りの人たちの心を動かすことです。彼らの仕事したい意欲は経営者や周りの人たちのやる気を喚起し、成長を促します。比嘉氏は自身の姉妹に障害があることで差別を受けた体験、産褥期鬱の中仕事を続けた経験、息子がダウン症で生まれ医師から受けた言葉の悔しさをバネに起業した経験。様々な経験から「息子を巻き込む社会が幸せにならない」という声にはできない」という声



比嘉氏

ます。当初、現場からは彼の対応について相談があり、障がい者就労支援センター、特別支援学校、琉球スポーツサポートの余暇活動の先生らとチームを組んで、障がい者雇用の困り事を解決する道筋を作りました。また、保護者とはラインでつながっていて、彼の心のケアや健康管理の面で協力してもらっています。こちらが良いと思っ

比嘉氏は自身の姉妹に障害があることで差別を受けた体験、産褥期鬱の中仕事を続けた経験、息子がダウン症で生まれ医師から受けた言葉の悔しさをバネに起業した経験。様々な経験から「息子を巻き込む社会が幸せにならない」という声にはできない」という声



ハーモニーセンターでの分会

れない信念が生まれました。それは「子どもたちの生きやすい社会を作っていく」という使命へとつながっていききました。グループ討論では「誰もが働きやすい企業、社会をつくるために何をしますか」のテーマで、「まずは心のバリアフリーを整えていく」等の意見がありました。(株)いしかわ文明堂・石川京美)

第3分科会

持続可能な雇用を支える
地域の就労支援



5氏によるパネルディスカッション

第三分科会では、「持続可能な雇用を支える地域の就労支援」をテーマにパネルディスカッションが行われました。(同)AICOサービスマネジメント 佐藤香菜子氏がコーディネーターを務め、パネリストとして行政より浦添市長の松本哲治氏、学校より那覇みらい支援学校教諭の真玉橋克彦氏、地域企業より丸忠代表の喜納朝勝氏が登壇し、それぞれの立場から意見を述べました。学校側からは、就労に繋げるための職業教室を充実させているとの話が

課も加わり、横の連携を強化しているとのことでした。また、グループ討論では障害者雇用に関して、活発な意見が交わされ、

持続可能な就労支援の重要性を改めて感じるパネルディスカッションとなりました。(株)Cavite・栗国傑)

第4分科会

障がい者向けの
総合型スポーツクラブを
全国に発信



手登根氏

教職時代、パラリンピクや全国大会を目指す在校生二人が、卒業後のクラブ活動を継続していくのが困難な状況を支援するためでした。

第四分科会では、「障がい者スポーツを沖縄から変える」生きる力をつけるための余暇活動支援(一社)をテーマに(二社)琉球スポーツサポートの手登根雄次代表理事に、障がい者の就労後の支援活動を主に報告して頂きました。元々教員だった手登根氏は、特別支援に関わる教育を実践していく中で、スポーツを通して社会を変えていきたいという信念の持ち主でした。法人を立ち上げたきっかけは、



一般の参加者と全員で深める

今では競技種目が増え、全国大会レベルから初心者まで楽しめるスポーツクラブになっており、スポーツが苦手な人の為に、eスポーツも取り入れるなど、多岐にわたり支援をしています。今回は、就労後の支援にクラブ活動がどういう効果をもたらすのかというお話も頂きました。県が出している障がい者の就労後三年間の雇用定着率は低いのが現状ですが、琉球スポーツサポートの社会人就労者の

雇用定着率は、85・7%もあるという調査結果が出ました。この数字から余暇活動の大切さや、スポーツを通してコミュニケーション能力を高めたたり、生活リズムを整えたりなど、ストレスコントロール出来ていると実感しました。



グループ討論後の発表

最後に手登根さんより、障がい者向けの総合型スポーツクラブとして全国に発信し、ノーマライゼーションの力になりたいとの言葉で締めくくりました。(有)バージョン・當間哲也)

互いの取り組みについて
ざっくばらんな意見交換ができました



支店長からの挨拶

十月十一日、「沖縄振興開発金融公庫中部支店と仲良くなる会」が、興開金融公庫中部支店と仲良くなる会」が、沖縄公庫中部支店で開催され、同友会から十七名が参加しました。

公庫からは中部支店長嶺井忍氏、業務第一課長仲村厚氏、業務第二課長上原真紀氏に出席していただき、仲村氏からは「沖縄の地域沖縄公庫の機能等、公庫の概要説明が行われました。その後の質疑応答では「借入金返済のリスクとジュールが認められる条件は？」や「自社ビルを建設する場合の条件や相談のタイミングは？」等、具体的かつ活発な質問が続々。これに対し公庫の方からわかりやすく丁寧

経営者の思いを政策提言に反映



星崎氏

「普段は言えない女性経営者の思いを吐き出す！」そんな趣旨で十月

十一日に開催された、碧の会政策委員会主催の「同友会の真ん中で本音を語る」は、女性経営者の思いを政策提言に反映させること。チームごとに「女性経営者としての悩み」を付箋に張り出し、

プレゼンされる中で次々とでてきたのは、家事育児、付き合、仕事、意識、そして社会構造と、あらゆる環境における女性の不利。しかし、そんな中でも女性経営者として活躍している碧の会のメンバーの力強さを、改めて感じることに。

本会には控えめな様子で男性も参加していましたが、ファシリテーター



メモに課題を集める

ター役の星崎浩二氏からは「男も辛いんですよ!」と「男性の『大黒柱バイアス』の解消」を求め、最終的に早急な改革が必要なのは「社会構造」と「意識」という意見に至り、今後どのような提言にまとめられるのが楽しみです。(株)ハルモニアグラランデ・小橋川牧)



中部支部会員と意見交換

「カラオケ同友会」は、島尻氏が退職に伴い十月



いままでありがとうございました

島尻裕巳氏 22年間お疲れ様でした!

十月三十日、団欒酒場赤とんぼにて、沖縄同友会会二十二年間勤め上げ、九月末日で退職した二代目事務局局長島尻裕巳氏の慰労会が開催されました。慰労会では、支部からのメッセージ動画や参加者から激励の言葉が送られ、記念品贈呈が行われました。二次会は「カラオケ同友会」に移動し、これまでの思い出に花を咲かせました。



(左)田上氏、(右)仲本氏

女性経営者部会「碧の会」10月部会例会 人、環境、熟度に応じた DX導入で経営環境改善へ！

今回の報告でDX導入を前向きに検討したくなかった経営者がいたのではないのでしょうか？女性経営者部会「碧の会」10月部会例会が十月二十五日に開催されました。「DXははじめの一步」製造業 仲松ミート全集



歴代中部支部長

十月三日、中部支部では三十五周年記念イベントを開催しました。中部支部は、三十六年前に沖縄県中小企業家同友会が設立された一年後に県内初の支部として、設立されました。今年が三十五周年ということで、イベントを開催することにしましたが、経費をかけずに印象に残るイベントにしようと知恵を絞りました。



写真展で35年を振り返る

三十五年の写真展を開催。写真は同友会事務局にある写真の中から実行委員で中部に関連しているような写真を選び、コピー印刷で作りました。三十五年間を一年ごとに当時の支部長名とスローガンを記載し、時代を振り返れるようにしました。ホールの片側では、歴代の支部長に参加いただき、当時の思い出を振り返っていただくとともに、今後の中部支部に臨むことのアドバイスをい

中部支部35周年記念イベント（沖縄同友会設立記念日） 中部支部の温故知新 〜今までとこれから〜

ただきました。歴代支部長の(株)沖縄浄

管センター取締役 座間味唯康さん、(株)OKCOM代表取締役 小渡玲さん、ハウス産業(株)代表取締役 照屋守道さん、(有)アンカー商事代表取締役 奥崎文美さんありがとうございました。(株)アイセック・ジャパン・一瀬宗也)



これからも進み続けます！

南部支部例会 小さな一流企業をめざして



(左)小田氏、(右)竹氏

南部支部では、十月二十日に津嘉山公民館にて例会を開催し、代表就任後ちようど一年経った(有)たけ事務代表取締役 竹富久氏が「小さな一流企業をめざして」代表になって一年の葛藤」と

題して報告を行いました。入社後から今日まで、会社、社員さん、先代のお父さんとの間に様々な葛藤を抱えてきました

中の「IOT」をテーマに、(有)仲松ミート仲本和美執行役員と、(株)グラスアス沖縄 田上カルロス代表取締役が登壇しました。

仲松ミートが抱えている課題は、アナログな管理体制で生産管理ができておらず、残業・休日出勤は当たり前な体制。この課題に対し、グラシアスは働く人の状況、作業環境、IT利活用の成熟



DX導入で自社にできる事

入を阻む存在について話が及ぶと、経営者側は社員に、社員側は経営者に原因を求める声上がるという非常にリアルな展開に。双方の協力なくしてはDXは進まないのだ、という現実を目の前



喜納氏

十月二十三日、沖縄産業支援センターにて那覇支部十月支部例会を開催しました。報告者に中部支部長の(株)アイセック・ジャパン代表 一瀬宗也氏を迎え、座長當銘将也氏により進行しました。



一瀬氏

那覇支部10月支部例会 経営者は 絶対にあきらめちゃいけない

た。会社の規模や売上などの業績をもって一流とする意見は全く無く、「社員が誇りに思う会社」「社員の子供が入社したい」と



同友会型企業とは

今回の例会は、アイセック・ジャパンの売りでもある字幕スクリーンを立ち上げての報告となりました。一瀬さんがI

2023年度役員研修講座第4講（浦西支部10月例会） 風土で自ら育つ会社づくりを目指す

先輩経営者たちとの出会い、時代の変化に対応するため会社での取り組みや、労使見解の大切さについて話されました。特に自社で行っている成長支援制度の仕組みや、シートを用いて年に四回社員と面談を行っている長の確認を行っているなど、「風土で自ら育つ会社づくり」を目指している話がありました。グループ討論では「本日の学びをどう企業づくりに実践していきますか？」をテーマに、「仕

は社会貢献ビジネスとして間違いはない」という信念の下、バンクミーツィングを重ね、また個人的な繋がりや金融機関にも再度足を運び、キャッシュフローの改善に至ります。現在は、V字回復したといえる状況で、これまでに会った方のおかげであると感謝の気持ちでいっぱいだと締めくくりました。その後のグループ討論では、新会員の方は「こんなに生々しい話が聞けるところなの？」という驚きの声や、ベテラン会員さんは久しぶりに同友会らしい報告が聞けたとの感想等もあり、参加された会員には大きな気付きのある例会となりました。(あいエフピー・大浜博文)



(株)アイセック・ジャパンさん (株)プログレス31さん

第47回沖縄の産業まつり 沖縄同友会・会員企業の魅力をPR

十月二十七日〜二十九日、第四十七回沖縄の産業まつりが奥武山運動公園を中心に開催されました。今回は四年ぶりにコロナの制限がない全面リアル開催となり、過去最多の三十一万五千人が来場しました。ビジネス連携部会「ゆいまゝる」は、県立武道館アリーナ棟に、「同友会☆輝くうち

なく見本市」コーナーを設け、会員企業七社(株)宜野湾電設、(有)大宮工機、(株)アイセック・ジャパン、(株)ソムノクエスト、(株)プログレス31、夢づくり(株)と仲間づくり推進本部で出展したほか、初日には同アリーナ棟において、「連携事例報告会」を開催し、(有)沖繩北斗・大城照政社長、(株)プログレス31・金城隆子社長、(株)丸大・植田奈利子部長が「ゆいまゝる」会員同士の連携事例について紹介しました。



4年ぶりの産業まつりは大盛況!

に盛況で、多くの県民に沖縄同友会や会員企業の魅力をPRすることができました。(事務局)



「ノムキフ」の紹介

今年度初となったウオークキングは、まずユースセンター・アシタネへ。同友会政策委員会が応援している「沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい」のイベント「ノムキフ」に参加。ちゅらゆいの若者支援の活動を学び、日本酒を堪能しました。次に、浦西支部会員で人力車の活動も行っている南日本薬品(株)の長谷川達郎氏に、やちむん通り



5県から大集合!

会の真骨頂はこれから。青森の皆さまが練り上げた三日間のツアーが始まります。素晴らしい会員訪問はもちろん、リング競り、弘前城、立ねぶたの館、リングもぎ体



新会員の皆さん

十月十二日、沖縄産業支援センターにて新会員オリエンテーションが開催され二十二名(内新会員七名)が参加しました。

10月新会員オリエンテーション

- ◇新会員紹介◇
- ① 那覇支部東地区所属、(株)アメニティ 慶田盛克磨 社長
- ② 浦西支部、照屋亮司 代表司法書士事務所 代表司法書士 照屋亮 代表司法書士
- ③ 浦西支部所属、シーサープロダクション 長濱仁 代表者
- ④ 那覇支部東地区所属、(株)和嶺企画 糸嶺篤義 取締役 二列目左から順に
- ⑤ 那覇支部南地区所属、(一社)絆 間曾彬允 理事



支部を越え21名参加

の歴史を説明してもらいながらウオークキングを楽しみました。その後、お楽しみBBO交流会が始まり、BBOから合流した方も含めて総勢約二十一名が参加。経営の話しながら歩き、笑い、最後は冷たいビールを飲み、過ぎ行く夏を堪能しました。浦西支部は、5つのクラブ活動(ゴルフ・ボウリング・ウオークキング・釣り・企業変革支援プログラム)を通して交流を深めています。関心ある方はぜひ。(事務局)

浦西支部ウオークキングクラブ 那覇の歴史巡りとBBOで夏を堪能

十二月十五日は、浦添社会福祉センターにて開催されます。まだ参加したことがない会員さんは、是非ご参加ください。(事務局)



グループ討論を体験

八重山支部&青森同友会津軽支部合同例会 地域を超えた同友会ならではの合同例会に学ぶ!

「楽しかった!次はいつ?」聞かずにがなでみんな満足、相対に楽しかった合同例会(別名・ちゅらふるー例会)が、かの北の地「青森」で賑やかに開催されました。参加者は千葉・滋賀・広島・沖縄から、そして色々準備して下さった青森同友会の皆様です。



経営指針を創る会発表会の参加

納正雄氏の子供応援をテーマにした祭り開催の取り組みを基に「地域の未来」について話し合いました。外部からの視点、皆を巻き込んで課題に取り組み、など様々な意見が出されました。

見学」まで。何事にも本気で真面目に取り組み青森の皆さまの素晴らしい一端を見る事が出来ました。その場所に行き、多くの人に会い、楽しく知合いの輪が広がっていく

のは、まさに同友会ならではの。皆さまも是非、次回ちゅらふるー例会にふるってご参加下さい。(有)PLAN t PLAN・宮良高彰)

連携事業継続力強化計画

頻発する大規模災害や新型コロナウイルス等による感染症の流行に、個々の企業が単独で対策を講じることには限界があります。他の企業と連携すれば、資源の融通、代替生産や情報共有等、単独では対応できない部分を相互に支援しあえます。

組合等を通じた連携

- 同業種・異業種団体間で協力
- 人員の融通、設備の共同導入
- 車両・倉庫の相互利用 など

サプライチェーンで連携

- 需給情報、被害情報の共有
- 上位企業による復旧支援 など

地域で連携

- 共同避難計画、共同訓練
- 電源・備蓄品の共同管理 など

相互補完による連携

- 代替生産、人員・設備の融通
- 原材料・部品確保の協力 など

主な連携の種類

連携事業継続力強化計画策定の主なメリット

- 対策集約によりコスト抑制
- 物資や場所等の確保が容易に
- 集団化で発信力・交渉力強化
- 被災しなかった企業での代替生産

顧客からの信頼の向上 競争力の強化 地域経済の安定

なお、連携事業継続力強化計画の参加企業は、補助金の加算などの支援策が受けられます(ものづくり補助金など)

独立行政法人 中小企業基盤整備機構沖縄事務所 〒901-0152 沖縄県那覇市小祿1831-1 沖縄産業支援センター313-1 TEL: 098-859-7566

沖縄の
気になる数字

18



日本の農業の方向性から見えること

日本の農林水産省は数年前に「みどりの食料システム戦略」というものを打ち出し、将来の農業ビジョンを提唱した。さらに現在日本の農業政策の根幹を担う「食料・農業・農村基本法」の見直しが行われており、日本の農業の方向性を示し直す動きが活発になりつつあります。沖縄においては3次産業従事者が多いことで有名ですが、1次産業従事者比率は3.9%(全国は3.2%)とあまり大差がない。一方で産出額については、令和元年で977億円、基幹的農業従事者数は13,288人と1人あたりは735万円程度になるが、約40年前の昭和60年では1,160億円と今より多いが40,461人と1人あたりは287万円程度と大きく差が開いている。物価の違いもあるはずだがこの大きな要因は品目の変遷と言われており、現在沖縄県で最も産出額が多い品目は肉用牛(繁殖)となっており、これは外国人観光客の増加や輸出増が背景と見られる。耕地面積は46,200haから37,000haと約9,200ha(久米島1.5個分)減っている中、今後の沖縄、特に離島においては重要な産業の1つとして、どのような方針、品目になっていくのか、目を離せないところだ。(株みやぎ農園・小田哲也)

全業種の業況判断

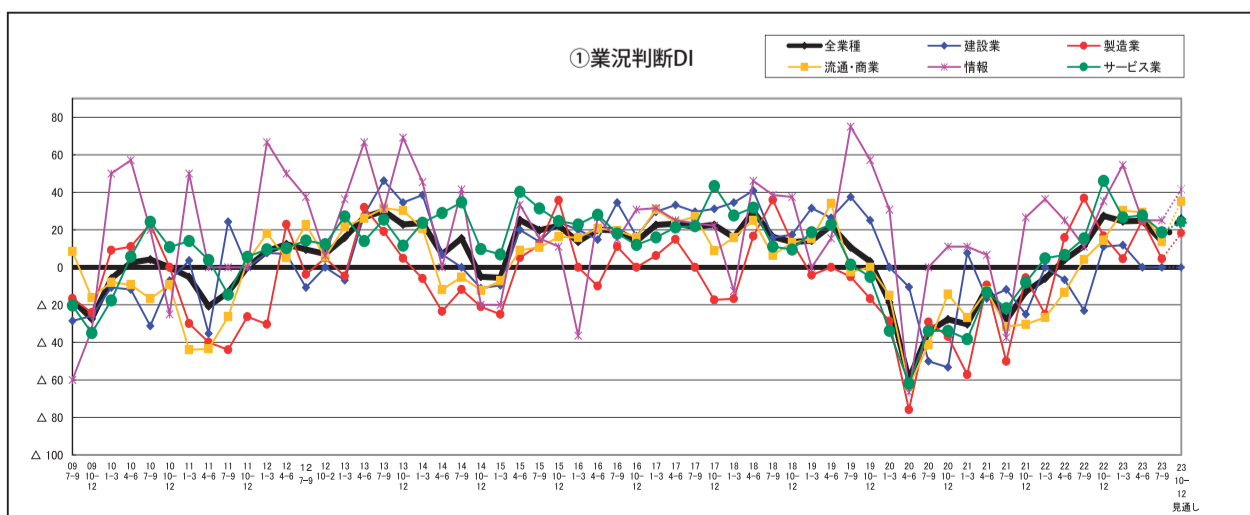
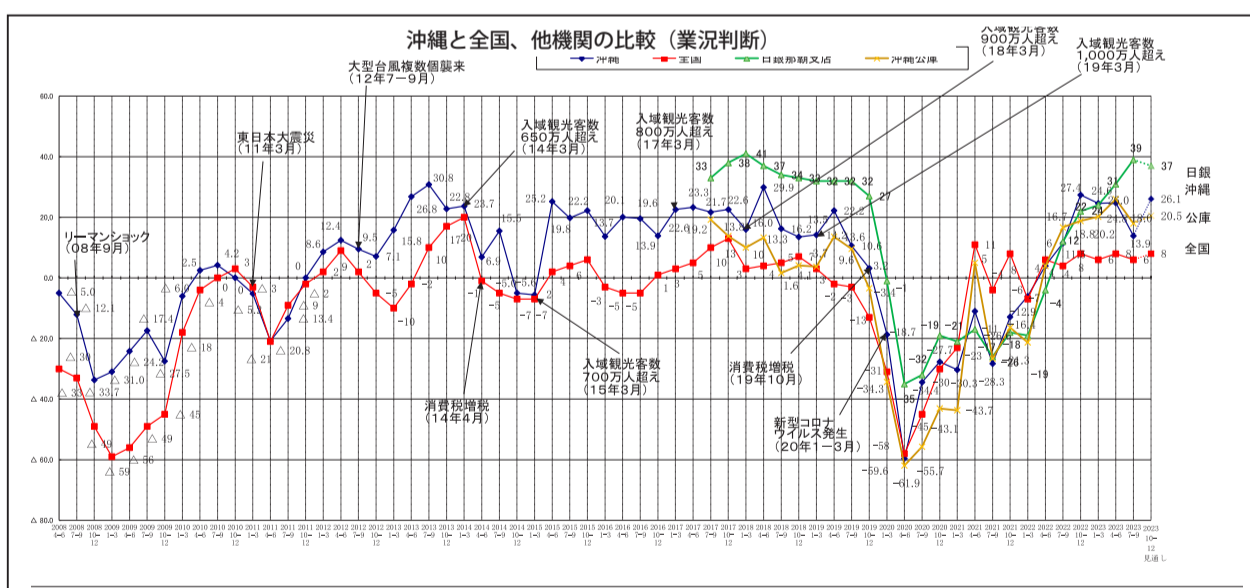
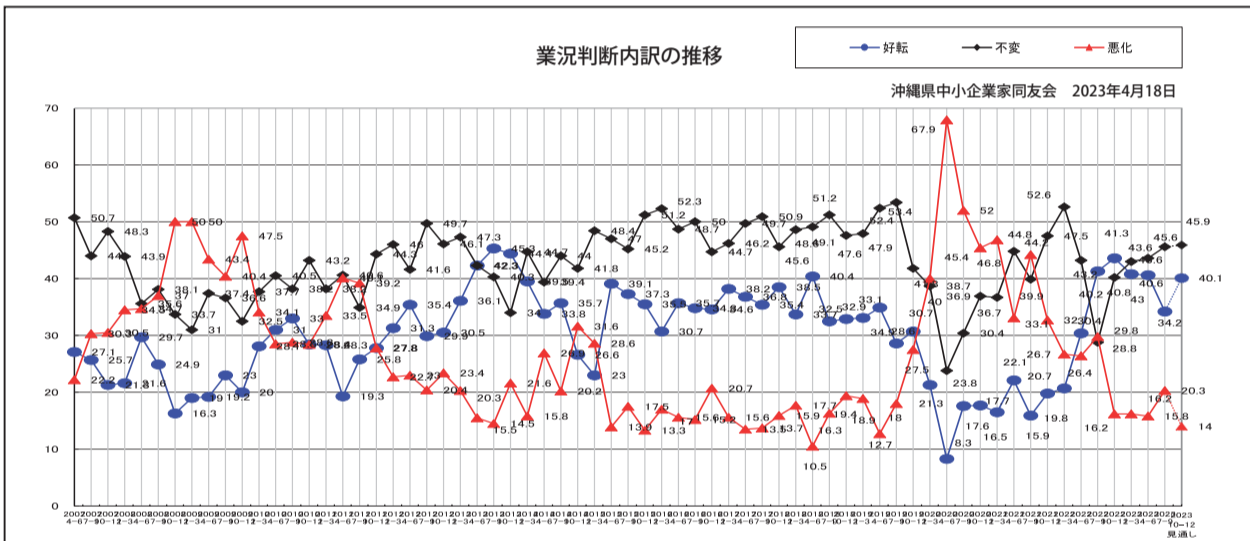
全業種の業況判断DIは悪化
引き続き原材料高騰・人手不足への
対応として、付加価値の増大が
求められる

沖縄県中小企業家同友会は、会員企業から抽出した397社を対象に9月1日から9月30日の期間、「7-9月期景況」についてのアンケート調査を実施しました。その結果について見解を發表します。(本文中、特に断りのない限り前年同期比です)

Table with 4 main columns: 業況判断, 売上高DI, 経常利益DI, 資金繰りDI. Each column has sub-columns for 2023 4-6月期 and 2023 7-9月期, and a 増減 column. Rows include 全業種, 建設業, 製造業, 流通・商業, 情報, サービス業.

2023年7-9月期景況調査の結果について(見解)
回答企業数

- (1) 回答企業 159社 回答率 40.1%
- (2) 業種別 ()は実数 製造業 13.8%(22) 建設業 8.8%(14) 流通・商業 32.1%(51) サービス業 37.1%(59) 情報 8.2%(13)
- (3) 規模別 従業員数 <正従業員>平均 27名 <臨時従業員>平均 9名



- ①業況判断DIは、前期調査結果と比べて(24.8⇒13.9)後退するも、6期連続プラス超。
- ②売上高DIは、前期調査結果と比べて(24.6⇒19.5)と後退するも、引き続きプラス超。
- ③経常利益DIは、前期調査結果と比べて(17.5⇒3.9)と全業種で後退・悪化。
- ④資金繰りDI(「好転」-「悪化」割合)は、前期調査結果と比べて改善し、プラス超へ転化。
- ⑤経営上の問題点は、前期に続き「仕入単価の上昇」が第1位、力点は前期第2位の「付加価値の増大」が第1位。
- ⑥先行きは、建設業以外で改善し、情報は大幅改善の見通し。

同記事は、ホームページにも掲載しております